

1 はじめに

現在の広島港港湾計画は、平成11年に改訂されたものであり、計画の前提となった社会情勢、港湾物流の動向等に変化が生じていることから、港湾計画の改訂に向け、広島港の将来像や、その実現に向けた基本戦略等を示す広島港長期構想の見直しを行う。

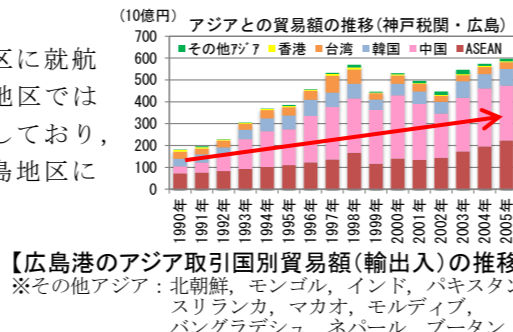
2 社会情勢の変化

①経済成長著しい東南アジアへの航路増便の要請

【現状】 広島県内企業の東南アジア諸国等への海外進出が進展したことにより、広島港とアジアとの貿易額は増加傾向であるが、広島港の背後圏発生貨物の56%が他港を利用している状況であり、東南アジア航路の増便が要請されている。

また、広島港における外貿コンテナ定期航路は出島・海田地区に就航しているが、東南アジア航路等の船舶が大型化しており、海田地区では大型のコンテナ船が入港できない。出島地区でもバースが不足しており、新たな航路の誘致が困難であるため、海田地区の外貿貨物を出島地区に集約することが不可能な状況である。

【課題】 海田地区の外貿貨物を大型のコンテナ船が利用できる出島地区へ集約するため、出島地区の外貿コンテナ機能の強化を図り、東南アジア航路の増便に対応する必要がある。 [資料1 P30](#)



②環境に配慮したエネルギー需要の増加の見通し

【現状】 経済産業省の「LNG市場戦略(H28.5)」では、LNG需要が2020年までに約45%拡充(約2.5億トン⇒約3.5億トン)見込みとしており、広島港でLNGを輸入している広島ガス㈱はエネルギー市場の環境変化を好機とし普及拡大を計画している。

【課題】 広島ガス㈱の現栈橋では、LNG船が満載で入港できない。LNG需要の拡大に対応するためには、栈橋等の拡充(-14m化)、埠頭用地の再編によるLNGタンク増設用地の確保が必要である。 [資料1 P33, 34](#)

③輸入形態の変化等による港湾施設の低利用化

【現状】 廿日市地区における木材の輸入形態は、原木から製材へシフトし、荷役形態も水面投下から岸壁利用にシフトしていることから、水面貯木場等は低利用化が進んでいる。また、木材運搬船(製材輸入)が満載入港できていない。

【課題】 水面貯木場等の有効活用や船舶の大型化への対応が必要である。 [資料1 P33, 34](#)



④大型クルーズ客船の寄港回数の増大

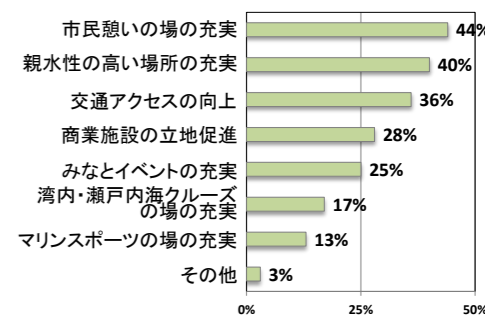
【現状】 クルーズ船により入国した外国人旅客数は、世界的なクルーズ人口の増加に伴い、2020年の目標である100万人を前倒しで実現し、新たな目標として500万人が設定されている。広島港においても、観光資源(「厳島神社」や「原爆ドーム」)を活かしたクルーズ客船の寄港回数が増加している(H27: 32回, H28: 51回, H29: 49回)。

【課題】 広島港宇品地区は、大型のクルーズ客船が係留できる岸壁や旅客ターミナル機能が不十分のため、クルーズ客船受入れの施設の充実・確保が必要である。 [資料1 P42](#)

⑤県民の親水・憩い機能確保の要請やみなとの賑わいづくりの進展

【現状】 宇品地区では民間活力を活かした商業施設等が立地し、みなとの資源を活用した賑わいづくりが進展しているが、県民へのアンケートによると、依然として人流・賑わい面での必要な取組について「市民憩いの場の充実」、「親水性の高い場所の充実」の要請が高い。

【課題】 宇品から出島地区にかけて賑わい創出を進展するために、今後も民間資金の導入促進や利用者に配慮したパブリックアクセスの向上が必要である。 [資料1 P43, 44](#)



⑥大規模災害時の防災・減災対策の要請

【現状】 平成23年3月の東日本大震災を契機に県民の防災意識が高まる中、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されているが、大規模地震発生時に緊急物資を輸送するための耐震強化岸壁が不足している。

【課題】 耐震強化岸壁の整備が必要である。 [資料1 P45](#)

⑦環境との共生

【現状】 健全な都市活動や港湾整備を維持するための廃棄物の受け入れや、安全で美しい港湾空間の形成のため、放置艇対策の推進が求められている。

【課題】 廃棄物処理施設や係留保管施設の確保が必要である。 [資料1 P47, 49](#)

現状と課題から導き出される将来像とそれを実現するための取組内容

現状の例	課題の例	将来像	基本戦略	港湾計画	主な取組内容の例
①経済成長著しい東南アジアへの航路増便の要請	・外貿貨物を出島地区への集約が必要。 ・東南アジア航路の増便への対応が必要。	物流・産業 地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支援する国際物流拠点	戦略1 荷主企業の生産性向上・物流効率化に資する国際競争力の高いコンテナ物流拠点の形成	方針1	・出島地区:コンテナ機能の強化(外貿コンテナ機能の強化、浚渫土砂を利用した埋立による物流用地等の確保)
②環境に配慮したエネルギー需要の増加の見通し	・LNG船が満載入港できない。 ・埠頭用地の再編によるLNGタンク増設用地の確保が必要。		戦略2 地域産業の持続的発展や競争力強化に資する物流基盤の強化及び産業基盤の形成	方針4	・廿日市地区:バルク貨物取扱機能の強化(浚渫土砂を利用した埋立による物流用地等の確保)
③輸入形態の変化等による港湾施設の低利用化	・水面貯木場の有効活用 ・船舶の大型化への対応(海面処分場の確保)		戦略3 瀬戸内地域交流や国際交流に資する交流ネットワークの形成	方針2	・宇品地区:交流拠点機能の強化(クルーズ客船受入機能の拡充)
④大型クルーズ客船の寄港回数の増大	・大型クルーズ客船が係留できる岸壁が不十分 ・旅客ターミナル機能が不十分	人流・賑わい 瀬戸内と世界とをつなぐ国際交流拠点	戦略4 憩い・賑わいの場となる親水空間・交流拠点の形成	方針3	・宇品地区:親水空間及び魅力的な水際線の整備の促進(民間活力による賑わい空間の創出)
⑤県民の親水・憩い機能確保の要請やみなとの賑わいづくりの進展	・民間資金の導入促進や利用者に配慮したパブリックアクセスの向上が必要	安全安心 防災性・安全性が高く環境と共生する港	戦略5 港の防災機能の向上及び既存ストックの有効活用	方針1	・宇品地区:ハード・ソフト一体となった防災・減災対策の促進(耐震強化岸壁の整備)
⑥大規模災害時の防災・減災対策の要請	・耐震強化岸壁の整備が必要		戦略6 港湾活動と調和した沿岸域の環境の確保	方針3	海面処分場の確保 (・出島地区:廃棄物の受け入れ) (・廿日市地区:廃棄物(浚渫土)の受け入れ)
⑦環境との共生	・廃棄物、浚渫土の廃棄物処分施設の確保				